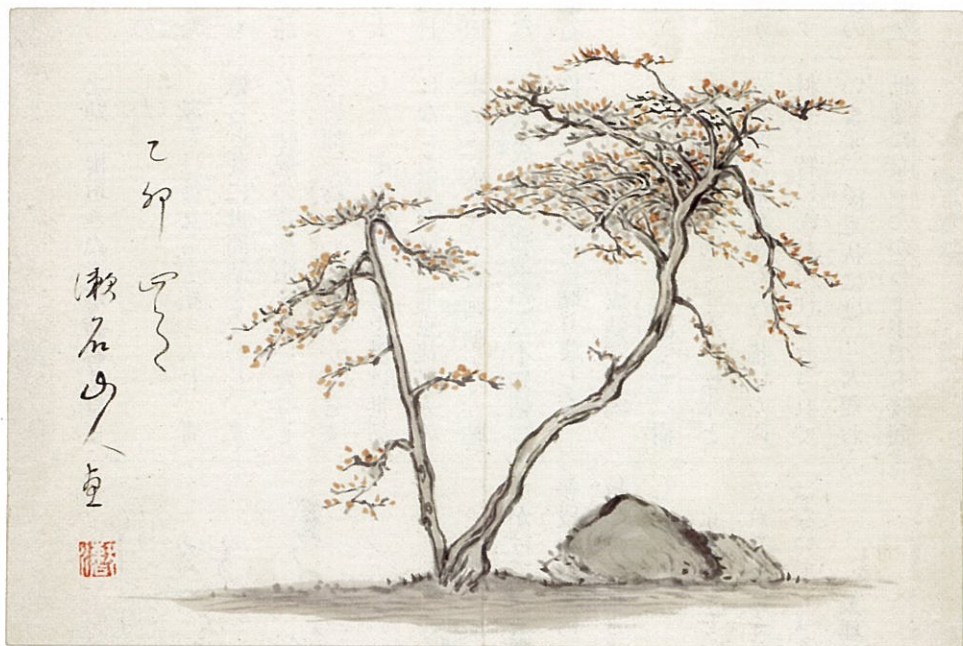


やまとの名品 天理図書館



じゅもく いわ ず  
樹木と岩図

夏目漱石画  
大正4年(1915)4月  
縦23.9cm 横35.9cm

夏目漱石（一八六七～一九一六）

六）と言えば、皆さんご存じの通り明治・大正時代に活躍した文豪ですが、実は絵に關しても造詣が深く、自らも多数の作品を残しました。

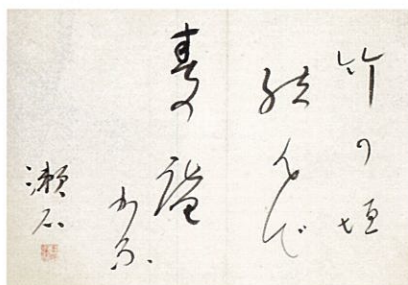
その漱石が亡くなる前年の大正四年（一九一五）三月十九日からひと月あまり、友人の津田青楓を頼りに京都を訪れました。青楓は絵の師匠でもあり、漱石作品の装幀も手がけました。

滞在中、持病の胃痛が発症し、奈良に行く予定をキャンセルして床に伏せていると、以前から漱石作品の愛読者であり、フアンレターも送っていた京都の芸妓菊君（本名野村きみ）と金

之助（梅垣きぬ）が訪ねてきました。

漱石は彼女らを招き入れ、青楓らと共に世間話を交わし、また三味線の音や唄を聴いたりして胃痛を紛らわすことができました。その後も来訪を受け世話になった漱石は、帰京後二人の求めに応じて書画帖を三帖（『不成帖』『咄哉帖』『不知帖』）作成し、彼女らに贈りました。

掲出の画は『不成帖』の内、分割された水墨画一図です。樹木の名称は不明ですが、樹木と岩の図は漱石が好んで描いた画材で、特に優れた作と評されています。添え状には、「大変お世話になったから下手でも時間



同じ『不成帖』に収められていた漱石自筆の句「竹の垣 結んで春の 庵かな」

をかけて一所懸命描きましたが、普段なら千円（現在の一千万円）貰っても描きません」と認めました。

京都で楽しい時を過ごさせてくれた感謝を込めて贈ったのではないのでしょうか。

（天理図書館 佐上圭太）

天理図書館のお知らせ Tel: 0743 - 63 - 9200 <http://www.tcl.gr.jp/>

◆平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）

○5月の休館日: 3～5日・31日

（本図は、5月14日～6月11日開催の、天理ギャラリー第161回展「漱石一生誕百五十年を記念して」に出品します）